

活 用 事 例	愛媛県松山市立八坂小学校	石田年保教諭
活用事例タイトル	児童の理解力・想像力を高める教師用デジタル教科書の活用	
対象授業科目/活動	小学校第4学年国語科	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	授業の概要 教科 国語 単元名 「伝え合う」ということ(光村図書) 指導計画 16時間(本時その1) 実施学年 第4学年 実施時期 9月上旬 実施場所 普通教室 使用したICT機器 電子黒板 デジタル教科書(光村図書) 本単元のねらい及び授業の概要について 本単元は、指導要領の指導内容A「話すこと・聞くこと」を主なねらいとしている。本授業は本単元の第1時(単元の導入)にあたり、単元全体を通した児童の学習課題および学習意欲をもたせることをねらいとした。 実際の授業の様子 本授業は、生活で使われている「伝え合う」方法について考えさせ、「手と心で読む」とはどのようなことを予想させながら、点字に対する興味関心を高めていった。 その後、本物の点字に実際に触れ、手で読むことの難しさを体感させた後、どうやって読んでいるのかを確認するために、デジタル教科書の動画クリップ「点字を読んでいる様子」を児童に見せた。児童は、自分たちの想像とは違い、目で読むのと変わらないスピードで点字を読み取っていく姿を見て、大変驚いていた。 また、映像から右手と左手の指の使い方やどうやってその技能を習得したのかななどにも興味をもち、資料「手と心で読む」にはどのようなことが書かれているのかという教材文の内容に興味が高まった。 電子黒板で、教科書の「手と心で読む」の本文を拡大表示し、教師が読み聞かせを行った。教科書の挿絵を拡大表示したり、重要語句にラインを引いたりして児童がイメージを広げたり、内容の理解が深められたりするようにした。特に挿絵から児童は自分の生活を振り返り、生活の中での点字の使われ方に関して多くの意見を交流することができた。「児童の感想」にも見られるように、多くの児童が点字を使う人に対しても目を向け、自分と点字の関わりについて考えることができていた。 (児童の感想) 私が、この本を読んで思ったことは、「自分のことを人に伝えたい。」という意欲がすごいと思いました。自分は目の見えない世界に入ってしまったけど、頑張	

	れば大丈夫という気持ちが伝わってきました。点字は目の不自由な人のためのやくめをはたしてるんだな、と思いました。目は見えなくても、点字で自分のことを伝えられるのが、今の自分たちと違うことが分かりました。目の不自由な人は、すごい力をもっているんだなぁと思いました。
ICT 活用により 期待できる効果 ICT 活用のねらい	本授業では大きく以下の2つの効果を期待し、デジタル教科書を使用した。 ア 点字に対するイメージをふくらませ、本単元および資料「手と心で読む」に対する興味関心を高めるための動画クリップの活用 イ 教材文の読み取りの効果を高めるための教材文や挿絵等の拡大提示
評価、振り返り（活動の評価や児童・生徒の声など）	「デジタル教科書」には、単元に連動する動画や静止画等の教材が充実しており、前述したねらいを達成するために必要なコンテンツを、指導意図に沿って取捨選択しながら活用をすることができた。そのため、デジタルコンテンツによって、生活経験を想起させたり、体験した感動を大きくさせたりすることができ、従来の授業と比べ、児童の学習に対する期待感や関心を高めることができたと考える。 また、ディスプレイに教科書本文を拡大提示することにより、話題が明確になり、従来の授業スタイルと比べ、児童の意識を一つに集めることができた。この点も、教材文だけの読み取りと比べて、教材文のイメージをより広げることができた要因になったと考える。 本単元を実施し終えての感想に「国語が好きになった。」という児童の記述があった。これまで国語にあまり興味を示さなかった児童ではあるが、デジタルコンテンツを教科のねらいにそって、有効に活用していくことによって、より分かる授業が展開でき、児童の学習に対する意欲を高めることができたという手応えを感じることができた。

<授業の様子>



第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 石田年保

- 1 日時 平成16年9月16日(木) 第3校時 10:35～11:20
- 2 場所 自教室
- 3 単元名 調べて発表しよう 「伝え合う」ということ 一手と心で読むー

4 単元の目標

- ◎ 伝え合い、分かり合うには、いろいろな方法があることに気づき、調べたりまとめたりしたものを聞き手に分かりやすく伝えることができる。
- クラスの友達に自分の考えが分かるように筋道を立てて話すことができる。
- 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめることができる。
- 相手やその場の状況に応じて、適切な言葉遣いで話すことができる。

5 指導観

- 本学級の児童は全体的に知的好奇心が強く活発である。話し合い活動にも意欲的に参加し、自分の考えを伝えたい、相手に聞いてもらいたいという気持ちが強い。学級内での人間関係もよりよい関係が築けており、だれとでも仲良く活動したり、コミュニケーションをとったりすることができる。しかし、身近な存在であるため、言葉遣いが雑になったり、馴れ合いになったりして、言葉の大切さや必要性は意識されることが少ない。

児童はこれまでに「新聞記者になろう」の学習で、取材の方法を知り、掲示物を使って伝えることを学習し、「無人島でくらすとしたら」の学習や「ここ夏集会」の出し物についての話し合いなどを通して、グループ単位で話し合っ意見をもとめることや、クラスで企画を立てるために話し合う学習経験を経てきている。この中で、まだ少数ではあるが、互いの考えを伝え合い、活発に議論できる児童も育ってきている。

一方、児童の伝える力の個人差は大きく、自分の考えを積極的に伝えようとはするが、内容を整理しないままに発言し、相手に自分の考えがうまく伝わらない場面も見受けられる。また、自分の考えを文章で表現することはできるが、発表して相手に伝えることには消極的な児童もいる。今後、伝え合うことによる楽しさや喜びを実感として味わわせていく必要がある。

- 本単元『「伝え合う」ということ』では、学習活動を通して、児童に「伝え合う力」を育てることを主なねらいとしている。

「伝え合う力」とは、お互いの思いや考えを寄せ合い、問題点や共通点、お互いの立場などを分かり合おうとする態度であり、表現したり理解したりする力をもとにして、言葉で伝える力である。

本校では、「『人』と豊かにかかわり、共に伸びゆく児童の育成」を研究主題にし、生活科・総合的な学習の時間を中心に研究を進めている。その中で、児童に「感じる力」「考える力」「表す力」「かかわり合う力」の4つの力を育てることを目指している。本単元でねらう「伝え合う力」は、これらの4つの力と密接にかかわっている。

本単元では、「手と心で読む」という、文字を失うことのつらさと、点字を獲得することの喜びを表した説明文をきっかけとして、身の回りの人と人との心をつなぐ道具や手段の存在に目を広げ、調べ学習を行う構成になっている。この資料から、児童は、普段意識することなく使われている言葉やコミュニケーションの大切さに気づくことができるのではないだろうか。また、調べてきたことを伝え合う場を設けることにより、児童は今まで以上に相手に分かりやすく伝えるための発表の方法や聞き方などを工夫し、「伝え合う力」を高めることができる。さらにこれらの学習を通して児童の意識は、本校第4学年で行われる総合的な学習の時間の福祉のテーマにもつながっていくと考える。

- 「伝え合う力」を高めるためには、自分にとっての相手意識や目的意識を明確にし、具体的な活動を工夫する必要がある。そのために、「〇〇ニュースを作ろう。」と児童に投げかけ、テレビのアナウンサー役として、限られた時間の中で自分たちが調べてきたことを筋道を立てて相手に分かりやすく伝える場を設定することにした。

まず、デジタルコンテンツを活用し、写真や動画クリップを見せ、点字や点字を使う人への意識を高めた上で、教材文と出わせたい。そして、内容を読み取り感想を発表させたりする中で、「点字」に関して知っていること、新たに知ったこと、疑問などを意見交流させていきたい。児童は教材文を通して、いろいろな人の立場に立って、身の回りのものを見つめ、もっと調べてみたいという気持ちをもつであろう。

そこで、児童に自分が一番関心をもった課題を選ばせ、課題別のグループに分かれて、調べ学習を展開していく。

次に、調べたことの中から自分が一番伝えたい内容を、各グループ5分間の番組にまとめる活動を行う。発表時間が限定されているため、自分たちの伝えたいことを端的に短くまとめて発表する必要がある。そこで、そのまとめ方の一例として教科書の発表原稿を参考にさせ、筋道を立ててわかりやすくする方法として、話し始めと結びを考えて全体を組

み立てさせる。さらに、DVDレコーダーを活用し、発表の様子を映像で見せ、児童一人一人に自分の発表態度や発表内容を自己評価させることにより、よりよい発表にするための改善点などを、意識化させることによって、話す力を伸ばしたいと考える。

しかし、児童なりに発表の工夫をさせたとしても、どうすればもっとよりよく伝わるだろうかという壁にぶつかる児童、または、自分の発表に満足しても、新たな目標が見いだせない児童も出てくることが考えられる。そこで、中間発表会を行う際に、実際に報道番組に携わっているアナウンサーをゲストティーチャーとして招き、児童の発表のアドバイスをしてもらうことにより、一人一人の課題意識をそれぞれがより高めさせる場として生かしていきたい。

また、これらの活動を通して制作したニュース番組を見合い、自己評価・相互評価を行わせる。その際、児童が互いの発表を視聴し合う中で、自分の発表を振り返るとともに、互いのよさや思いを認め合えるような場となるよう雰囲気作りに努めたい。

終末段階には、アドバイスをしてくれたアナウンサーに、学習を通して考えたことを手紙として表現させ、児童一人一人に本単元の主題について考える時間を設定し、「伝え合う」ことのすばらしさに迫りたいと考えている。

○ 本時の活動について

本時は、本単元の導入であり、点字に関する興味関心を高めたうえで読んでみたいという気持ちを高めたうえで、資料「手と心で読む」に出会わせ、初発の感想を持つことをねらいとしている。

まず、児童に日常様々な方法でお互いの気持ちを伝え合っていることを意識化させた後、資料「手と心で読む」の題名から資料の内容を想像させる。「手で読む」ということから児童は「点字」に関する内容であることを予想するであろう。そこで、点字に実際に触れ点字を読む活動を行うことにより、児童の点字に関する興味や関心はより高まると考える。さらに、目が不自由で健常者となんら変わりなく、すらすらと点字の本を読んでいる人の映像を見せることにより、児童は驚きと感動を覚え、点字を使う人にも意識を広げると考える。この様に児童の意識を高めたうえで、資料「手と心で読む」に出会わせることで、児童一人一人がより深い読み取りや、資料からよりイメージを広げて内容について考えることができるのではないかと考える。さらに、「デジタル教科書」で教科書の内容を拡大表示し、場面ごとに児童の感想を聞きながら教師が読み聞かせを行うことにより、学習効果をより高めることができると考える。

< デジタルコンテンツ活用の意図 >

本コンテンツ「国語デジタル教科書」は、光村図書がプロジェクタなどの教材提示用に開発した、一斉学習のための国語教授用ソフトである。特徴的な機能としては、プロジェクタ等を活用することにより、教科書本文や挿絵を大きく拡大表示できる点、漢字の筆順がアニメーション表示できる点、教材文に即した参考資料が用意されている点などがあげられる。

本単元『「伝え合う」ということ』では、話すこと・聞くことの能力の育成が中心となるが、このデジタルコンテンツを活用し、教材文を提示しながら学習を進めることにより、教材文を読み取りの場面でより焦点化した読み取りが可能となり、読み取りの力を今まで以上高めることができると考える。児童同士の話し合いにおいても、一つ一つの言葉を指し示しながら話し合いを進めることができるため、話し合いの内容が焦点化されるため、伝え合う力の育成の効果も高めることができると考える。

また、参考資料として用意されている、点字に関する動画や静止画は、児童の課題意識を高めたり発想を広げたりする際に有効であると考えられる。

< DVDビデオレコーダーの活用の意図 >

従来のビデオ機器で児童の様子を記録し、児童自身がその映像を見て、自己評価を行う活動を行うとき障害となっていたのが、「巻き戻し」による時間のロスである。その問題を改善するために、映像をコンピュータに取り込むことも考えられたが、操作が煩雑であり、その、準備にも大変な時間と労力が必要となる。

そこで、今回、DVDビデオレコーダーを活用することにした。このDVDビデオレコーダーで記録を行うと、記録した映像ごとにチャプターとして表示され、そのチャプターを選ぶことにより、瞬時に見たい映像を見ることができる。操作としては、従来のビデオ撮影と同じであり、児童だけでも可能な操作である。

このことにより、映像による児童の活動の振り返りがより容易にできるようになると考えた。

6 指導計画（16時間）

次	学習内容	時間	意識の流れ	・指導上の留意点○情報機器の活用
一	・資料「手と心で読む」を読んで初発の感想を交流し合い、今後の学習活動に関する興味関心を高める。 ・学習課題をもつ。	1 (本時) 1	「手と心で読む」を読んで、思ったことを伝え合おう。 ・自分たちの身の回りにたくさんの点字があるな。 ・文字はいろいろな思いを伝え合うんだな。 ・人々の心を結ぶ便利な道具や方法ってどんなものがあるんだろう。 「手と心で読む」を読んで、もっと調べてみたいことを発表し合おう。 ・どんなところに点字があるのかな。 ・点字を読んだり、作ったりしてみたいな。 ・手話について勉強してみたいな。 ・目や手が不自由な人のための道具や設備にはどんなものがあるのかな？。 ・目や手の不自由な人に会って、いろいろな話を聞いてみたいな。 調べたことをアナウンサーになって、伝え合おう。 ・相手によく伝わるニュースを作りたいな。	○写真・動画等を活用し、点字に関する興味関心を高める。 ○「デジタル教科書」を活用し、教師が読み聞かせを行い、場面ごとに読み取りを行う。 ・児童がもった感想を大切にし、点字以外にも手話などに関する課題等も取り上げていく。 ○生活用品や福祉設備などの工夫にも目がいこう、静止画や動画を活用する。 ・調べたことをニュースにして発表するという今後の活動の見通しをもたせ、児童の意欲を高める。
二	・自分の課題について調べる計画を立てる。 ・自分の課題について取材を行う。 ・調べた内容をまとめる。 ・発表の仕方を工夫する。 ・互いにアドバイスし合う。 ・アナウンサーの人にアドバイスをもらう。	1 1 2 2 2 2	グループごとに調べる計画を立てよう。 ・スーパーやデパートに行って、いろいろな施設を見てみよう。 ・身の回りの道具を調べてみよう。 ・駅や空港に行って調べてみよう。 ・図書館などで点字の秘密を調べてみよう。 ・福祉センターに行って、インタビューしてみよう。 〇〇ニュースの取材をしよう。 ※放課後や休みの日を利用して、各自調査を行う。 ・いろいろな施設に点字があったな。 ・ジャンプやビールなどにも点字があったな。 ・点字のきまりがわかったよ。 ・点字を作ってみたけど大変だったよ。 〇〇ニュースの原稿を作ろう。 ・調べた内容と方法・知らせたいことの中心・感想という構成を考えて、相手に分かりやすく伝えよう。 ・テレビのアナウンサーのように分かりやすく伝えたいな。 ニュースの発表練習をしよう。 ・相手の方を見て、発表しよう。 ・ゆっくり、はっきり言うことはできているかな。 ・写真や図などの説明はうまくできているかな。 お互いの発表を聞いて、アドバイスし合おう。 ・伝えたいことがよく分かるな。 ・言い方や資料の見せ方をどう工夫すればよく伝わるのかな。 自分たちのニュースをアナウンサーの人に見てもらおう。 ・スピーチメモを書き直してみよう ・相手に伝わる話し方の工夫をしてみよう。 ・人に伝えるって大切なことなんだな。 ・ぼくも檜垣さんみたいになりたいな。	・課題別にグループを作り、調べる計画を立てさせる。 ・取材方法や場所、また、必要な道具など考えさせる。 ○取材方法の一つとして、デジタルカメラやビデオカメラの活用方法も知らせる。 ・児童が調べに行くであろう施設には事前に連絡を入れておく。 ・インタビューや取材のマナーについて事前に指導を行っておく。 ・いつ・どこで・どのように使われているのか等が、よくわかるようにメモの取り方も工夫させる。 ○実際のニュースの映像などを見せることにより、発表のイメージをつかませる。 ・筋道立った話ができるよう、話し始めや結びを考えた原稿になるよう指導する。 ○DVDカメラを活用し、自分の発表の様子を自己評価させる。 ・互いの発表を聞き合い、相手の伝えたいことが伝わっていたかどうか相互評価させる。その際、カードを用いて聞き合うポイントを明確にする。 ・実際にテレビ局アナウンサーに来てもらい、児童の発表を見てのアドバイスをもらう。事前に内容については打ち合わせをしておく。伝え合うことについてアナウンサーとして大切に考え

	・アドバイスをもとに、自分の発表を修正する。 ・発表会を行う。	1 アドバイスを生かして、もっといいニュースを作ろう。 ・相手によく伝わるニュースにすることができたな。 2 自分たちのニュースを振り返ろう。 ・初めと比べるとずいぶんと、よくなっているな。 ・みんな上手に伝えることができているな。	ていることなども、児童に話してもらおう。 ・アドバイスを生かして、よりよい発表になるように、自分たちの発表をもう一度見直させる。 ○以前の発表とアドバイスを生かして作ったニュースを視聴し合い、自己評価・相互評価させる。
三	・学習を振り返る。	1 「伝え合う」ことについて考えたことを、お礼の手紙に書こう。 ・いろいろな人の立場に立った伝え合うための工夫がたくさんあるんだな。 ・いろいろな人と気持ちを「伝え合い」、仲良くなりたいな。	・「伝え合う」ことについて、また、学習を通して考えたことを、意見交流させる。 ・児童一人一人が学習を通して考えたことを、ワークシートに書かせ学習のまとめとする。

7 評価規準

	関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	読むこと	言語事項
一	○点字や教材文への興味関心を高めることができる。 (観察) ○点字などについて、自分が調べたい学習課題をもつことができる。 (ノート)		○興味をもって教材文を読み、イメージを広げながら初発の感想をもつことができる。 (ノート)	
二	○自分の課題について、進んで調べようとする。 (観察) ○調べたことを友達に分かりやすく発表しようとしている。 (観察・評価カード) ○メモを工夫したり発表の練習を繰り返したりしている。 (観察・評価カード) ○アナウンサーに積極的に質問したり、話を聞いて自分の発表を振り返ることができている。 (観察・評価カード)	○調べたことから伝えたいことを選び、話の中心を決めて聞く人に伝わるように発表している。 (発表メモ・観察) ○友達の発表を聞き、大事なことをメモに書いている。 (評価カード) ○アナウンサーの話を聞き、伝えることについての考えをまとめることができる。 (観察・評価カード)		○大事な言葉をゆっくり話す。 (観察・映像) ○聞き手や場所を考えて、みんなに聞こえる声の大きさと話すなど話し方を工夫している。 (観察・映像)
三	○学習を振り返り、「伝え合う」ことについて、自分の考えを意欲的に書こうとしている。 (手紙文)			

8 本時の学習

(1) 目標

- 資料「手と心で読む」や点字に関する興味関心を高めることができる。
- デジタルコンテンツを手がかりに、興味をもって資料を読み、初発の感想を書くことができる。

(2) 準備 コンピュータ デジタル教科書 プラズマディスプレイ（提示装置） ワークシート 点字の本

(3) 展開

学習活動	意識の流れ	指導上の留意点・評価
1 生活を振り返り「伝え合う」ことについて考える。	生活の中で使っている、考えや気持ちを伝え合う方法について考えさせる。 ・いろいろな方法で気持ちや考えを伝え合っているんだな。	・生活の中で気持ちや考えを伝えている場面の写真を見せ、本単元の主題について知らせる。
2 資料「手と心で読む」や点字に関する興味関をもつ。	「手と心で読む」とはどういうことだろう。 ・点字のことなのかな。 ・手話のことなのかな。 ・心で読むとはどんなことだろう。 ・目の不自由な人のことなのかな。 実際に点字に触れてみよう。 ・さわっただけでは、読むことはできないな。 ・目の不自由な人はどうやって点字を読んでいるのだろう。 ・すごい早さで読んでいるな。どうやったらそんなに早く読めるのだろう。 ・筆者「大島健輔」ってどんな人なんだろう。	・題名から想像することを発表させ、点字や手話などに対する、興味を高めさせる。 ・実際に点字に触れてみて、点字を読むことの難しさを体感させる。 ・実際に点字を読んでいるところの動画クリップを見せ、点字だけではなくそれを読む人についての関心を高める。 ◎点字や教材文への興味関心を高めることができたか。（観察）
3 本文を読んで初発の感想を伝え合う。	資料「手と心を読む」を通読し、初発の感想を交流する。 まとめり1 ・スーパーや駅などで、見たことあるよ。 ・生活の道具にも点字があるよ。 まとめり2 ・目が見えなくなることはつらいことなんだな。 ・何気なく使っているけど文字って大切なんだな。 ・点字の図書館ってどんなところだろう。 まとめり3 ・ルイ＝ブライユってどんな人なんだろう。 ・点字にはどんなきまりがあるんだろう。 ・点字ってどうやって作るんだろう。 ・人々の心を結ぶ便利な道具や方法はどんなものがあるんだろう。	・デジタルコンテンツ「デジタル教科書」を活用し、教師が読み聞かせを行う。 ・場面ごとに読んで気づいたことなどを発表させ、内容を読み深めたり、感想を広げたりする。
4 ノートに自分の考えたことを書く。	思ったことや考えたことをワークシートに書こう。 ・自分たちの身の回りにもいろいろな点字があるな。 ・点字についていろいろ調べたいな。	◎興味をもって教材文を読み、イメージを広げながら初発の感想を書くことができたか。（ワークシート）